

義務教育学校視察に係る主な質問事項及び回答

	質問事項	回 答
1	<p>9年間の区割を前期（6年）、後期（3年）をファーストステージ（1～4年）、セカンドステージ（5～7年）、ファイナルステージ（8～9年）と4・3・2制の区切りにした目的と理由を教えてください。</p>	<p>教育課程としては前期課程では小学校学習指導要領、後期課程では中学校学習指導要領を準用し、6・3制を基本としつつ、施設一体型義務教育学校の利点を生かし学習面や生活面などの指導の効果を上げるため、9年間を見通して学年の区切りを柔軟に設定しています。9年間の育ちと学びを見通した継続、連続した学習指導を行うために、ファーストでは「学級担任を中心とした学習、基礎・基本の定着、学習習慣の定着」、セカンドでは「一部教科担任制からなだらかに教科担任制（後期課程）へ移行、基礎・基本の徹底と応用力の定着」、ファイナルでは「専門的な学習の充実、確かな進路選択の保障」をめざしています。また現在、ファーストでは「自己有用感」、セカンドでは「役割による責任感」、ファイナルでは「社会の一陣としての責任」をテーマとして設定し、教育活動に取り組んでいます。</p>
2	<p>大部分の学校が6－3制をとっている中、4・3・2制をとることで、困ることはありますか。（例）転入生の際の要録など</p>	<p>4・3・2制はあくまでも発達段階を捉えた指導上の重点を意識して設定したものであり、教育課程は前期課程では小学校学習指導要領、後期課程では中学校学習指導要領を準用しているため、児童生徒の転出入や要録等は影響ありません。</p>
3	<p>学習指導要領をどの程度弾力的に運用できていますでしょうか。また、学習指導の内容の進め方は、どのようにされていますか。</p>	<p>教育課程の編成において、独自教科の創設は行っていないですが、前期課程と後期課程での教科や単元のつながりを意識し、後期課程教員による前期課程での授業実施、前期・後期教員が一体となり児童生徒の状況を共有するなどの面で施設一体型義務教育学校の良さが指導に生かされています。</p>
4	<p>出前授業や交流給食など、異学年交流を実施されてきたとありますが、その目的と効果（成果）についてお聞かせください。</p>	<p>下級生が年上の児童生徒に抱くあこがれや大切にされていると感じる機会、上級生がリーダーとなることで抱く自己有用感や下級生への優しさなど「豊かな心の育み」に効果があります。分離型の小中学校に比べ、より多様な展開が可能となることから、施設一体型を生かした普段からの関わりの場面や異学年交流の充実を図っています。</p>
5	<p>学校を統合する前に、どのような形で教育内容のすり合わせを行いましたか。（特に、人権教育やキャリア教育について）</p>	<p>南松尾はつが野学園は、今後更なる開発が見込まれていたはつが野地域の青葉はつが野小学校の過大規模校分離としての整備に加え、児童生徒数が減少していた南松尾地域の南松尾小学校・南松尾中学校を統合し、新設したものです。開校前においては、はつが野地域は開発中であり、南松尾小学校と南松尾中学校は全ての学年が単学級であったことから、体系的な教育内容や合同の運動会などの行事、学校でのルールの共有など、2校間で一体的な取組みが進められました。また、中学校教員が小学校へ、小学校教員が中学校へ兼務し授業を行うことも実施していました。</p>

6	<p>学校行事、合同行事について、どのような点に配慮して実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり集会の内容について教えてください。 ・運動会・体育祭について、どのように開催されていますか。 ・遠足は、どのように実施していますか。 ・小・中と校種が違うので、修学旅行は何回行っていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとに構成するたてわりグループを活用し、遊び・ゲーム・清掃・平和・七夕など、目的に応じて、全学年での集会、課程別の集会、ステージ別の集会などさまざまな形で行っています。 ・運動会・体育祭は合同で実施しています。これまでのところ、まだ児童生徒数が少ないので2学年合同の種目など行っていました。児童生徒数の増加を見越し、またコロナ後の新しい運動会、体育祭のあり方と合わせて見直しが必要と考えています。 ・遠足は、基本学年単位で行っています。 ・修学旅行は前期課程で1回、後期課程で1回行っています。
7	<p>義務教育学校施設の使用にあたって小学生と中学生の使用（身長の高さや身体の大きさの違い）にどのように対応していますか。（例えば、体育館の使用にあたって、バスケットゴールの高さの違いなどにはどう対応していますか。）</p>	<p>3つの棟を前期課程が2つ、後期課程が1つとして基本的な生活空間を分けています。また、階段は小学校の高さに合わせています。</p> <p>学習活動での利用のほか身体接触への配慮として廊下は一般的な学校よりも広くしています。</p> <p>体育館はミニバスケット3面分あり、また、ネットで仕切ることができ、複数学級（異学年同時）での利用も安全にできるようにしています。なお、バスケットゴールはハンドルで高さを変えることができる仕様です。</p> <p>プールは真ん中で仕切りを設け、深さの違うコースを設置しています。</p>
8	<p>小学校教員と中学校教員では、その働き方や文化に違いがあると言われるが、こちらの学校では、それらをどう乗り越えられたのですか。</p>	<p>平成29年度の小中一貫教育本格実施に向け、平成25年度からモデル校を指定し、小中一貫推進教員を配置（後補充として非常勤講師を配置）することで、校種間の情報共有や研修などの充実、推進を図っていきました。</p> <p>特に当該校区では教育委員会と校長が連携しながら、校長のリーダーシップのもと、南松尾小学校、南松尾中学校の2校間での連携、一体化を進めました。</p> <p>人事配置にあたっては、和泉市立学校の小中一貫教育推進に係る公募制による教員の人事異動実施要項に基づき小中一貫教育に理解を持ち、勤務したいという希望を持つ教員を公募の上、面談し配置するとともに、小中免許所持者の配置などにも留意しました。</p>

<p>9</p>	<p>学校運営協議会はどのような体制で行っているでしょうか。</p>	<p>和泉市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の第8条において以下のように定めています。</p> <p>協議会は、委員15人以内で組織する。ただし、対象学校の校長及び教職員を除き10人以内で組織する。</p> <p>協議会の委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命し、又は委嘱する。</p> <p>(1) 保護者 (2) 地域住民 (3) 対象学校の運営に資する活動を行う者</p> <p>(4) 対象学校の校長 (5) 対象学校の教職員 (6) 学識経験者</p> <p>(7) 関係行政機関の職員 (8) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が適当と認める者</p> <p>実態として、令和3年度においては、 PTA会長、PTA理事2名 校区町会連合会長 学校支援コーディネーター、旧PTA会長、地域教育協議会会長・副会長・会計、近隣保育園副園長 校長、副校長、教頭2名 市立学校元校長 で組織しました。</p> <p>また、「みなはつ版学校運営協議会 要綱」において（教育委員会の参画）について定め、学校運営協議会には教育委員会事務局職員である担当指導主事が参画しています。</p>
----------	------------------------------------	--

10	<p>施設一体型義務教育学校である「南松尾はつが野学園」では、義務教育学校としてメリットあるいはデメリットについてお聞かせください。</p>	<p>教職員に現状を聞くと、以下のようなメリット・デメリットを感じていました。</p> <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う校種のことを知ることができ、視野が広がる。 ・研修を通じて後期課程の教科の専門性を前期課程の学びにいかすことができる。 ・全教職員で子どもたちの1年生からの学びの過程を知ったうえで、教育活動を実践できる。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、児童生徒数や教職員数が増加傾向にあり、教職員の役割分担等が流動的である。 ・学年の行事が多いため、全体で打ち合わせや朝礼などの時間がとれないので、ICT活用などにより改善を進めている。 <p>また、開校当時のアンケート等により保護者からはこれまで以下のようなメリット・デメリットの声がありました。</p> <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数が増えて、色々な同じ年の子とふれ合えるようになり、友だちも増えた。 ・たてわり活動が充実しており、低学年が高学年に抱くあこがれや高学年の低学年への思いやりが育っている。 ・中1ギャップがない。 ・前期課程から部活動に参加できるのが良い。 ・後期課程の先生が関わってくれる。上の学年に上がった時の不安がない。 ・前期課程の先生が後期課程の授業をのぞいてくれるのも良い。 ・小中の子どもがいる場合、参観など1回で済むので負担が減った。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年間同じ環境にいたので、後期課程(中学生)としての意識面が弱いと感じる。 ・テストの時など、後期課程に気をつけて過ごすこともある。
11	<p>1時限45分間が基本となる小学校に対して中学校は1時限50分間が基本だと思いますが、チャイムはどのように対応されていますか。</p>	<p>授業時間は前期課程45分、後期課程50分のため、休憩時間を前期課程15分、後期課程10分とすることで、毎時間の授業開始時刻を揃えている。その上で、授業開始前に音楽を流し、授業開始時にチャイムを鳴らしている。(授業終了時のチャイムは鳴らしていない)</p>
12	<p>児童生徒の各学年の年齢による発達段階に応じた意識づけについての取組を御教示ください。</p>	<p>前期課程6年時に修了証書授与式を実施し、後期課程7年時に立志式を実施するなどして、前期課程から後期課程となる自覚を持てるようにしている。また、行事についても、前期課程だけの行事を行うなどして、前期課程6年生のリーダーシップを発揮する場面も設けている。</p>